

一 概 説

四季折々の祭りや年中行事などに、子孫繁栄と五穀豊穰を祈って繰り返し演じられてきた民俗は、かつて「郷土芸能」・「民間芸能」などいろいろな名称で呼ばれていたが、いずれも庶民のひたむきな信仰と結びついて生まれ育ったものである。それは、長い年月と途方もない多くの人々の生きるがためのたゆまざる努力の結晶であるだけに、素朴ながらもこの上ない奥深い魅力を秘めている。

福島県は、本州第二の面積を有し、浜通り、中通り、会津の気候風土の異なった三地方からなり、しかも関東に接しているだけに一早く中央の文化をも移入したためであろうか、その地方の風土や歴史に支えられながら、今日まで継承されてきた民俗芸能や祭礼神事は多彩で分布も広い。ことに民俗芸能は、まだ、神事といえるような古風で素朴なものからみごとに、風流化ないし舞踊化されて華やかになったものまで、あらゆる分野にわたって伝承されている。

民俗芸能は次のように分類される。

神 楽 (一) 巫女神楽(巫女舞、稚児舞)

(二) 出雲流神楽(太々神楽、十二神楽)

(三) 伊勢流神楽(湯の花)